日本各地の伝統芸能が伊勢へ集い、響演しました

第18回 神嘗奉祝祭「祭のまつり」

著名なお祭りが響演する「祭のまつり」も回を重ねて十八回。感動の最終回は、会場の熱い想いがひとつになりました！

15日

色とりどりの衣装が入り交じって外宮前北御門会場の熱気は最高潮に！
全国各地からのお祭り連がひとつになる「祭のまつり」ならではの総踊り

神宮の神嘗祭をともに祝う神嘗奉祝祭を、伊勢だけの行事ではなく全国に輪を広げた「祭のまつり」最終回は18団体が来勢しました。

前夜祭のサンアリーナも見納めとあって1万2千人を超える大盛況となりました。全団体が次々と披露する華やかな響演は見応えあり、特別奉祝花火も素晴らしくまさに有終の美を飾っていただきました。

15日外宮前会場は、雨も上がり、ご披露いただいた最後には、観客も参加して色とりどり華やかな総踊りで締めくくり、会場を心ひとつに盛り上げていただきました。

すべての演目が終了した後は、各団体揃って、それぞれ地元から携えてきた一握りのお米をもって外宮へ。それぞれ静かに感謝の思いをお納めされたことと思います。

14日

サンアリーナでの前夜祭。フィナーレを飾ったのは今宵限りの特別なスターマイン

第47回 初穂曳（はつほびき）

神嘗祭を祝い、感謝の心で御初穂を奉納する初穂曳。次世代を担う子どもたち、大学生、伊勢の町衆、特別神領民も、みんなで「エンヤー！」と心を合わせます。

陸曳

川曳

平成最後の開催となった「初穂曳」。「お木曳」「お白石持」という、ご遷宮に関わる民俗行事を伝承すると共に、神嘗祭をお祝いし感謝の気持ちでその年の御初穂を奉納します。

15日の外宮領・陸曳は今年も三台の奉曳車に「お木」・「樽」・「米俵」が積まれ、お初穂が飾られました。一番車に子どもたちや皇學館大学生、二番車には伊勢の町衆、三番車には県内外の特別神領民が曳き手として参加、予想外の雨の奉曳ではありましたが、総勢約1500名が元気よく奉曳。外宮北御門からは、お初穂やお米を持って無事お納めすることができました。

16日の内宮領・川曳は持ち回りで行われ、今年は大湊奉献団が運行を担当。10月にしては寒い日ではありましたが、初穂船を曳いて五十鈴川を遡り、無事内宮へと奉納されました。

昭和から始まり平成へと毎年欠かさず繋いできた初穂曳は、今年で第47回を数えます。来年以降は、新たな元号の時代となり、三年後の第50回、そして、七年後から始まる「お木曳」を見据えて、神宮とともに歴史を重ねた伊勢の伝統を繋ぎます。

お初穂を外宮へ奉納

初穂曳（はつほびき）は例年、神嘗祭の日、10月15日・16日に開催。3年後（2021年）に第50回を迎えます。

伊勢の民俗行事を次世代につなぐ初穂曳

初穂曳（外宮・陸曳）は、主旨をご理解いただいた方であれば、曳き手として一般参加していただける行事です。奉曳全般を担うのは、伊勢の有志による団体「伊勢神宮奉仕会青年部」、そして多くの企業や有志による協力団体がそれぞれの役割で支えています。

伊勢神宮奉仕会青年部は初穂曳を行うことで神宮について学んだり、次世代へつなげていけるよう、できる限り青年層が中心となって、奉曳の技術を研鑽しています。またその一環として毎年、JAの協力のもとに、奉納する稲穂づくりを行っています。田植え、稲刈は初穂曳に曳き手として参加する子どもたちも一緒に経験。稲穂を整え奉納する稲束をつくるなどの準備作業もすべて奉仕会青年部と、地元協力団体が行っています。

稲刈り（8月26日）

田植えの様子（4月29日）

※神宮奉仕会青年部の活動については事務局にお問い合わせください